

柳田國男と山中太郎

『日本巫女史(にほんふじょし)』(国書刊行会 2012; 初版は1930 大岡山書店)という600ページを超える名著があります。

著者の山中太郎もまた、折口信夫と同時期に、柳田の門を叩いた一人です。しかし柳田は終始一貫して中山の業績を認めようとはしなかったそうです。その真意を知ることはできませんが、中山が、柳田を中心とした民俗学「口承派」と相反する民俗史料の研究を主とした「文献派」であったこと、或いはまた、時に独断や飛躍とも言える論考であったことが原因だったのかもしれませんが。

しかし柳田は、唯一、この『日本巫女史』を高く評価したと、礪川全次氏は、同書巻末の解説で述べています。

それは、大阪朝日新聞(1930.5.27)に掲載された柳田の書評のこと、文中「～もし欠点をいうならば読んであまりに面白いこと、～」といった表現をはじめとして、遠まわしで難解なことと知られる柳田にあって最大限のほめ言葉と感じる点が随処にあります。

ではこの『日本巫女史』がどういう本なのか。礪川氏は解説中「～直接、本書に当たっていただくしかないが、～」と書いていますが、実に壮大なもので、ここで、民俗学の見識少ない者が到底紹介できる内容ではありません。

ただ、率直で飾らない人柄であり、幅広い交友関係があったこと、また如何に多くの史料収集を行ったかが見て取れるのが、註書きに記された地域の広さ、人物と文献の多さではないでしょうか。内容そのものの面白さはもとより、本県関係の地名、氏名、史料名を見るだけでも論文に惹き込まれていきます。

是非、ご一読ください。

今回紹介した本の中には、今日から見れば不適切と思われる表現があります。しかしながら、民俗学、歴史学という学術的著作であり、差別等を助長する意図で書かれたものではないことを考慮し、紹介するものです。

セオリーは存在しない。

今回のテーマであり、礪川氏の『独学の冒険』でいう「独学」とは、“自分ひとりの意思に基づき、基本的に、自分ひとりの力に頼っておこなう「学問」のことです。”(同書より)礪川氏も書いていますが、入試や資格試験の勉強を一人で行う、或いはスポーツ芸能の「独習」も含まない「学問」であって、奇説・珍説であってははいけません。しかし、アカデミズムの柵(しがらみ)に囚われることのない発想や資料の発掘による「知」の発見が、期待されるものです。

「独学」の概念についての詳細は同書をご覧ください。紹介されている独学者と著書に、その姿をみてみましょう。

千葉徳爾は、「切腹」「はげ山」「狩猟伝承」をテーマに、独自の研究を行った研究者です。千葉の『切腹の話』(後の改訂・改題版も含む)では、ストリッパーを調査した同人誌の記事や、ゴシップ的な割腹自殺を報じる新聞記事、或いはSM雑誌を参考文献に用いています。大学などに籍を置く研究者では考えられないことでしょう。

このようなゴシップ的資料の援用が、日本の民俗学草創期にも行われていたのです。

日本の民俗学の創始者は「柳田國男」です。それ以前の日本に民俗学はありません。柳田の『遠野物語』は、民間伝承を伝える先駆的著作と言われ、民話として読まれています。ところが、その作品中に、物語が世に出る十数年前に起った母親を切りつけるという事件の他、実際に遠野地区で起こった事件を民話として書き上げた作品が何作も含まれていると言われています。

礪川氏は、千葉の手法を紹介し、独学者がどのような資料を求め、用いるかについては、特にセオリーは存在しないと論じています。

『遠野物語』の詳細については、研究者の著作を読んでいただき、ご自身で判断ください。なお千葉は、柳田の門弟の一人です。

青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184
青森市荒川字藤戸 119-7
電話:017-729-4311
FAX:017-762-1757
<http://www.plib.pref.aomori.lg.jp>

礪川全次と独学の世界

～ 自立した独学者の「知」の発見 ～



礪川全次編 歴史民俗学資料叢書 批評社出版

“糞尿と排泄”“男色”“無法と悪党”“差別”…。編者の「礪川全次(こいしかわぜんじ)」とはどのような人物なのか、「民俗学」「歴史学」という言葉にその研究者を思い浮かべるとき、氏の名を挙げる方は、決して多くはないでしょう。

礪川氏は、自ら「歴史民俗学研究会」を主宰するも、大学や研究機関には所属しない「在野の研究者」です。

公表している経歴も1949年東京生まれ、東京教育大学卒業「在野史家」「ノックアウトライター」くらいです。

なんだ「素人」かと思われた方、礪川氏の『独学の冒険』(批評社 2015)を是非、ご覧ください。

在野の研究者だからこそ対象とできる分野、広がりのある研究、民俗学や歴史学では、このような研究が、多くの成果を残してきました。

今回は、礪川氏の叢書の外、「切腹」「巫女」「犯罪」など、在野研究、独学の世界を紹介します。

青森県立図書館 参考郷土室

2016



礪川全次と独学の世界 ～ 自立した独学者の「知」の発見 ～

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
独学の冒険 浪費する情報から知の発見へ	礪川全次/著	批評社	2015	379.7 コイカワ*ゼ	10214772428
日本巫女史	中山太郎/著	国書刊行会	2012	163.9 ナカヤマ*タ	10214362536
隠語の民俗学 差別とアイデンティティ	礪川全次/著	河出書房新社	2011	814.9 コイカワ*ゼ	10214298998
史疑徳川家康 新版	村岡素一郎/原著 榛葉英治/訳	雄山閣	2008	289.1 トカガワ*イ	10213830249
独学でよかった 読書と私の人生	佐藤忠男/著	千クマ秀版社	2007	019.04 サトウ*タ	10213660419
異端の民俗学 差別と境界をめぐる	礪川全次/著	河出書房新社	2006	380.1 コイカワ*ゼ	10213520721
イノシシは転ばない 「猪突猛進」の文化史	福井栄一/著	技報堂出版	2006	489.83 フキ*イ	10213593588
土俗とイデオロギー 歴史民俗学資料叢書 解説編 1	礪川全次/著	批評社	2004	380.4 コイカワ*ゼ (1)	10213332225
男色の民俗学 歴史民俗学資料叢書 第2期 3	礪川全次/編	批評社	2003	384.7 ダンショウ	10213113837
廁と排泄の民俗学 歴史民俗学資料叢書 第2期 1	礪川全次/編	批評社	2003	383.9 カヤトハイ	10213113014
サンカ学入門	礪川全次/著	批評社	2003	384 コイカワ*ゼ	10213075919
帝銀事件はこうして終わった	佐伯省/著	批評社	2002	326.23 サイキ*シ	10212733562
戦後ニッポン犯罪史 増補新装版	礪川全次/著	批評社	2000	368.6 コイカワ*ゼ	10212517308
日本人の帽子	樋口覚/著	講談社	2000	910.26 ヒグチ*サ	10212612267
岩木山信仰史	小館衷三/著	北方新社	2000	郷土0817和ワケ*アツカ 2000(2)	10212593616
生贄と人柱の民俗学 歴史民俗学資料叢書 5	礪川全次/編著	批評社	1998	380.4 コイカワ*ゼ	10212957976
刺青の民俗学 歴史民俗学資料叢書 4	礪川全次/編著	批評社	1997	383.7 コイカワ*ゼ	10212957965
日本人はなぜ切腹するのか	千葉徳爾/著	東京堂出版	1994	382.1 チバ*ト	10210766049
鯛のタイ	大西彬/著	草思社	1991	487.5 オオニシア	10200937759
かすてら加寿底良	明坂英二/著	講談社	1991	383.8 アサカ*イ	10210400614
枕の文化史	矢野憲一/著	講談社	1985	383.9 ヤノ*ケ	10200725681
間引きと水子 子育てのフォークロア	千葉徳爾/著 大津忠男/著	農山漁村文化協会	1983	081 ニンゲン*シ (67)	10200305612
本屋風情	岡茂雄/著	平凡社	1974	024 オカ*シ	10200213393
飛行蜘蛛	錦三郎/著	丸ノ内出版	1972	485 ニシキ*サ	10200622684
餅の博物誌	古川瑞昌/著	東京書房社	1972	383.8 フルカワ*ミ	10202245030

こちらのサイトもおすすめです。

礪川全次のコラムと名言
<http://blog.goo.ne.jp/514303>

在野史家・礪川全次氏の生きた言葉に触れることのできるブログ。今、氏が何を考え、何に感銘を受けているのか。

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。